

カリキュラム概要

国際社会開発研究科では、院生が持つ開発事例や実践経験を踏まえ、それらを総合化・相対化できることに重点を置いています。具体的には、社会・経済等に関わる政策から、地域やコミュニティでの計画や事業、そして、個別支援まで多岐にわたる開発関連諸分野について総合的に学び、開発諸領域を包括する「開発学」の枠組みを修得しながら、個々の開発事例や実践経験を相対化し、修士論文としてまとめるための研究指導を行います。

本研究科の教育課程は、開発に関連する諸分野を、仕組み（制度論）と行為（方法論）を中心に、いくつかの分野及び研究領域に区分けして、「開発学」として体系化しています。さらに、開発関連分野の中で今日的な課題に注目して、多様な科目群で構成しています。

具体的には、国際社会開発に関する共通の理解を育み、実践的な研究方法論を身につける「基礎教育科目」、実学としての開発学に必要な基幹的な知識と方法論を修得し、国際社会開発関連分野の中で履修者の個々の関心を掘り下げる「展開科目Ⅰ・Ⅱ」、海外及び日本での講義、フィールドワーク、ケーススタディ、議論等を通じ開発に必要な現場経験と応用力、そして、相対化する力を身につける「地域開発研究科目（スクーリング科目）」、院生各自の研究課題について、相互討議を通じた研究指導を行う「リサーチ科目」の4つによって編成されています。



●2026年度開講科目一覧

区分	科目名	修了要件
基礎教育科目 (テキスト科目・一部集中講義)	開発研究入門*1 / 国際社会開発の基礎 / 研究方法論 / 社会調査とデータ解析 [各科目2単位]	2科目4単位以上
展開科目Ⅰ (テキスト科目)	途上国社会経済論 / 開発組織・制度論 / 地域社会システム論 / 開発経済論 / 開発のミクロ経済学 / コミュニティ開発 / 開発評価論 / 地域社会開発論 / 環境計画論*2 [各科目2単位]	展開科目Ⅰ・Ⅱの中から5科目 10単位以上
展開科目Ⅱ (テキスト科目)	現場のためのICT活用 / 国際保健論 / 障害と開発 / 開発協力論 / マイクロファイナンス論 / 国際開発ワーカー(支援者)のためのビジネスの基礎 / 現地語による開発事例研究 / Social Development*3 / Participatory Development*3 / 福祉社会開発演習 / 国際社会開発特論Ⅰ・Ⅱ [各科目2単位]	
地域開発研究科目 (スクーリング科目)	日本及び東アジア地域開発研究 / 東南アジア地域開発研究 / 南アジア地域開発研究 / アフリカ地域開発研究 / 特定地域開発研究 / 海外開発実践 [各科目4単位]	2科目8単位以上。 ただし、2科目における実施国は同一国不可
リサーチ科目 (研究指導)	国際社会開発演習 テーマ:「開発と文化」「障害と開発」「情報と開発」 「住民主体の開発」「地域マネジメント」「ガバナンスと開発」 「アントレプレナーシップと開発」 [8単位]	8単位

*1 名古屋キャンパスでの集中講義 *2 2026年度で閉講 *3 英語で実施される科目

・開講科目は、年度ごとに変更される場合があります。

・地域開発研究科目については隔年開講等で変更・実施される場合があります。

本研究科で開講しているテキスト科目の概要は、こちらのURLからご覧いただけます。

<https://www.n-fukushi.ac.jp/gs/divisions/isd/research/index.html>

